



株主通信

2020年12月期第1四半期業績のご報告

(2019年10月1日～2019年12月31日)

本株主通信は2019年9月末時点での株主の皆様にお送りいたしますことをご了承ください。

株主・投資家の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第1四半期の半導体市場は、スマートフォンやデータセンター関連需要が低迷したことで、特にDRAM市況が引き続き軟調となりましたが、次世代通信規格(5G)や人工知能(AI)、IoT、自動運転等の分野において半導体消費が拡大すると考えられており、半導体メーカーの投資において回復の兆しが見え始めました。一方、FPD市場においては、大型液晶テレビやスマートフォン等の最終アプリケーション向けの需要が伸びていないことに加え、供給過多によりパネル価格が低調に推移したことで、多くのパネルメーカーにとって厳しい環境が続きました。

この結果、当第1四半期の経営成績[※]は、売上高9,221百万円、営業利益480百万円、経常利益519百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益365百万円となりました。

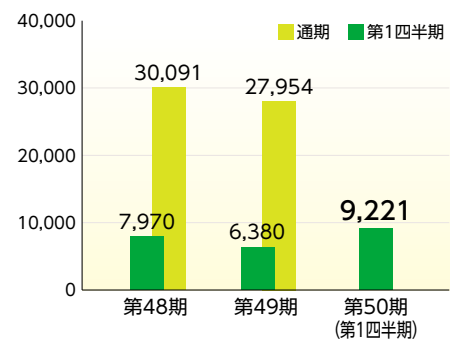
また、昨今猛威を振るう新型コロナウイルスに関し、当社グループにおきましては、2020年3月4日現在、中国拠点の生産活動が在宅勤務により一部影響を受けておりますが、国内外のその他の拠点は、通常通り稼働しております。

感染拡大が続く状況を鑑み、一部地域への渡航禁止や時差出勤の実施等、社員の安全を第一に考えるとともに、業績への影響を最小限にとどめるよう努めてまいります。

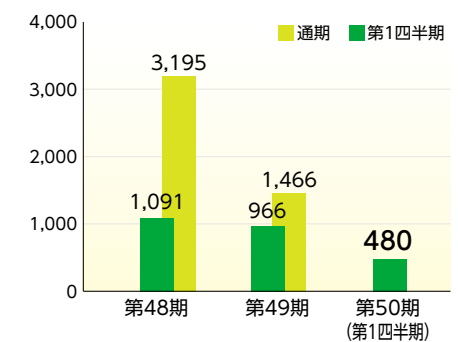
株主の皆様におかれましては、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長
長谷川 正義

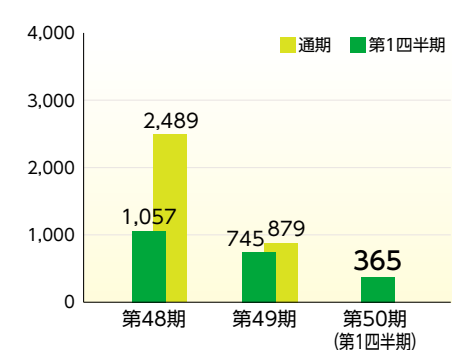
▶ 売上高(百万円)



▶ 営業利益(百万円)



▶ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(百万円)



※ 第1四半期の経営成績

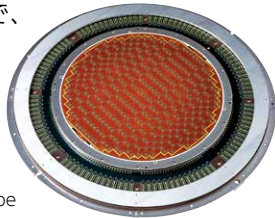
当社グループは、決算期を12月に統一いたしました。このため、当期は2019年10月1日から2020年12月31日までの15ヶ月決算となるとともに、第1四半期実績につきましては、同会計期間(3ヶ月)に加え、連結子会社の2019年7～9月の業績を含めております。



営業の概況

プローブカード事業

売上高は、ロジック向けやNAND向けが低調でしたが、厳しい市況下においても主要顧客の需要をしっかりと取り込んだDRAM向けが牽引しました。一方、利益面におきましては、決算期統一により連結子会社の連結対象期間を6ヶ月間としている影響等で、コストが一時的に増加しました。この結果、売上高は8,585百万円、セグメント利益は929百万円となりました。

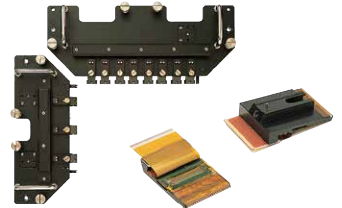


U-Probe

TE事業

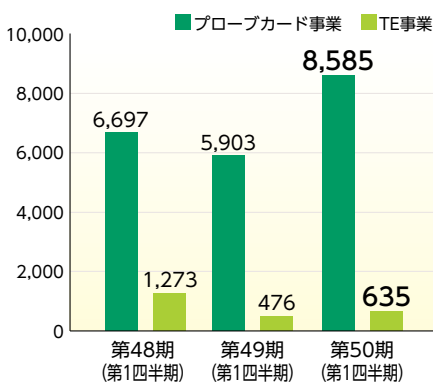
売上高は、テスト関連が引き続き低調となりましたが、プローブユニットの需要が堅調に推移しました。この結果、売上高は635百万円、セグメント利益は94百万円となりました。

なお、決算期統一により連結子会社の連結対象期間を6ヶ月間としている影響は軽微です。

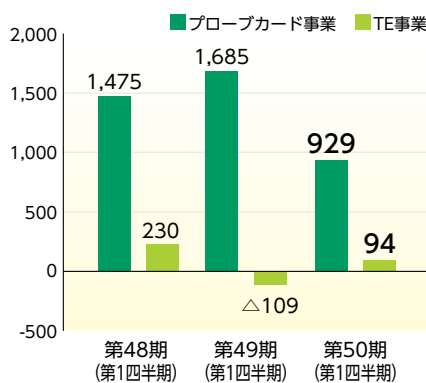


プローブユニット

セグメント別売上高(百万円)



セグメント利益(損失)(百万円)



※セグメント利益には、全社費用は含まれません。

地域別売上高構成比(百万円)



■ 日本	1,359 (14.7%)
■ 韓国	2,996 (32.5%)
■ 台湾	2,199 (23.9%)
■ その他アジア	1,654 (17.9%)
■ 米国・欧州	1,014 (11.0%)

業績予想 (2020年2月13日現在)

売上高	営業利益	親会社株主に帰属する四半期純利益
第2四半期(累計) 16,200 百万円	第2四半期(累計) 1,100 百万円	第2四半期(累計) 900 百万円
第3四半期(累計) 23,600 百万円	第3四半期(累計) 1,500 百万円	第3四半期(累計) 1,200 百万円



創業50周年を迎えるにあたり、5回にわたってMJCの歴史を振り返ります。

第1回 日本マイクロニクス の原点

当社は、1970年11月「トーワ電気株式会社」として社員3名のガレージカンパニーからスタートしました。1975年に社名を現在の「株式会社日本マイクロニクス」に変更。「マイクロニクス」は、micron(マイクロン)とelectronics(エレクトロニクス)を掛け合わせて考案されました。

電子機器のメンテナンスから始め、その後、半導体・FPDの検査機器に事業領域を拡大。ビジネスの場を世界へと広げてきました。社員が増える中、創業者の長谷川義榮(現相談役名誉会長)は、皆が同じ方向性を持ち続けられるよう、行動指針として「原理原則」「観・感・勤」「4つのステップ」*を掲げました。これらは、創業50周年を迎える今も変わらず、MJCのものづくりの精神として、大切に受け継がれています。

*現在は「5つのステップ」

行動指針は当社HP「企業情報」-「経営方針」に掲載されています。



検査機器の部品を確認する
長谷川相談役名誉会長

株式事務についてのご案内

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 連絡先 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711(通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部



本社 〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8
 HPアドレス <https://www.mjc.co.jp/>